

聖書フォーラム運動とは・神の国の福音

■はじめに

2016年8月、北九州市門司における皆様の集会在、聖書フォーラム運動に参画されることになりました。本日は、その聖書フォーラム運動についてご説明し、今後の集会運営について皆様とご相談する機会をいただきましたこと、主にあつて心から感謝申し上げます。

私は、熊本聖書フォーラムの代表をしております清水誠一（しみず・せいいち）と申します。よろしくお願ひします。本日お話しする内容は、

一番目、「私たちの信仰」です。私たちはどういう信仰を持っているかです。

二番目、「聖書解釈に関する4つの主張」です。聖書をどのように読むかです。

三番目、「聖書フォーラム運動の基本理念」についてご説明します。

これらの説明に続いて、具体的な質問にお答えします。事前に3つの質問を頂戴していただきましたので、それにお答えしたあとで、皆様からの自由な質問をお受けします。

そして、最後に、短い時間ですが、本日の礼拝メッセージとして、「神の国の福音」と題したお話をいたします。途中で1回休憩を入れて全体で約70分の予定です。

■私たちの信仰

1. 聖書について（Ⅱテモテ3：16～17、Ⅱペテロ1：20～21）

(1) 旧新約聖書はすべて原典において、神の靈感を受けて書かれた、誤りのない神のみことばです。

- 写本によるわずかな相違が見られます。翻訳によって意味がわかりにくくなることは、しばしばあります。ですから、いろいろな翻訳を比較しながら、学んでいきます。集会で用いる聖書は、新改訳聖書です。

(2) 旧約聖書はイエス・キリストを預言し、新約聖書はイエス・キリストを証言しています。聖書全体で、キリストによる救いと神の栄光を教えています。

(3) 聖書は、私たちの信仰と生活の唯一完全な規範です。

2. 神について（マタイ28：19～20、ピリピ2：6～8、Ⅰペテロ2：24、ヨハネ15：26）

(1) 聖書によってご自身を現された神は、父と子と聖霊の三位一体であつて、その本質において同一であり、力と栄光とを等しくされます。

(2) 父なる神は、永遠のご計画をもって万物を創造し、主権をもってこれを支配しておられます。

(3) 子なる神は、神でありながら、罪人の救いのために処女マリヤを通して生まれて人となられ、身代わりとなつて十字架にかかり、ただ一度ご自身を完全な犠牲として父なる神にささげ、罪の贖いを成し遂げてくださいました。このお方が、私たちの主イエス・キリストです。

(4) 復活されたキリストは、天に昇り、父なる神の右に座し、私たちのためにとりなしておられます。また、やがて栄光のうちに王として地上にお戻りになります。

(5) 聖霊なる神は、罪・義・さばきといったことについて罪人の目を開かせてくださり、信仰に導いてくださいます。私たちが信じると、聖霊は私たち一人ひとりの

心の中に入って住んでくださいます。聖霊は、キリストを証しし、私たちを教え、慰め、とりなしてください。イエス・キリストと並んでもうひとりの助け主です。

- (6) 聖霊は、信じるすべての人の心の中に、信じたその最初の瞬間に入ってください。誰でもキリストの証人となることができるように、すくなくとも一つの賜物を与えてくださいます。私たちは自分に与えられた賜物を、聖霊の助けによって見出し用いること、それによって互いに仕え、愛し合うことが信仰生活の目標です。
3. 救いについて（ローマ 3：19～24、エペソ 2：1～9、ヨハネ 1：12～13、Ⅱコリント 1：21～22）
 - (1) 私たち人間は、「神のかたち」として神に似せて造られましたが、罪に堕ち、神に背く者となりました。私たちは、永遠の滅びに向かっていました。
 - (2) しかし、神はなおも人類を愛し、キリストの十字架による救いを備えてくださいました。
 - (3) イエス・キリストは、私たちの罪のために十字架にかかって死んでくださり、墓に葬られ、三日目によみがえられました。
 - (4) このことを信じた人は、罪の中に霊的に死んでいた状態から、イエス・キリストによって命を与えられ、新生させられます。また、義と認められ、罪が赦され、神の子とされ、永遠の救いを受け取った者として、聖霊という証印が押されます。
 - (5) 他方、キリストを信じない者は、そのまま永遠の滅びに定められます。
 4. 教会について（エペソ 4：11～16、使徒 2：42～47）
 - (1) 教会（エクレシア＝招集された者たちの会合）は、神に選ばれ召された聖徒の集まりです。「主イエス・キリストがかしらで、教会はそのからだ」、あるいは「キリストは花婿、教会はその花嫁」といった表現がされます。
 - (2) 教会は、公同の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝え、洗礼と聖餐の礼典を行ない、聖徒を整え、愛のわざに励みつつ、再び来られる主を待ち望みます。
 5. 終末について
 - (1) イエス・キリストの空中再臨（教会の携挙）（Ⅰテサロニケ 4：16～17）
 - (2) 大患難期 7年間（黙示録 11：2～3、12：6、14、13：5）
 - (3) イスラエルの民族的救いとイエス・キリストの地上再臨（ローマ 11：26、黙示録 19：11～21）
 - (4) 死者の復活（黙示録 20：4～6、20：12、ヨハネ 5：28～29）
 - (5) 地上における千年王国（神の国）（黙示録 20：4～9）
 - (6) 大きな白い御座の裁き（最後の審判）（黙示録 20：11～15）
 - (7) 新しい天と新しい地（永遠の神の国）（黙示録 21：1～22：5）

■聖書解釈に関する4つの主張・・・フォーラムの集会バナーをご覧ください

1. 羊皮紙の巻物

私たちは、聖書を次のように信じます。

- ① 聖書は、誤りなき神のことばです。
- ② 聖書の原典は、靈感を受けて書かれており、なんの誤りも含みません
- ③ 聖書は、信仰と生活に関する唯一で最終的な権威です

私たちは、聖書について、次のようなことをしません。

- ① 人間の理性や自然現象で説明できるように読み替えたり、理解できるところだけ受け取って、そうでないところは捨てるようなこと
- ② 自分が読んで感じるままに自由に解釈するようなこと
- ③ キリスト教界の伝統や思想を、聖書よりも重んじるようなこと

2. ヘブル語で書かれた創世記1章1節

これは、ヘブル的視点で聖書を読み解く必要性を示しています。

- ① 聖書は紀元前 1500 年頃のモーセから始まり、紀元 90 年頃のヨハネに至るまで、長い年月をかけて書かれた 66 巻の書物の集合体です。書いた人の意図を正確にくみ取り、当時それを読んだ人々が受け取った内容にそって、聖書を読み解く必要があります。そのためには、その書が書かれた時代背景や文化的背景を知ること、古代ユダヤ教の教師（ラビ）たちの見解も含めて当時のユダヤ人たちがどう理解していたかを、重要視します。現代の異邦人が自分に引き付けて聖書を読んでも、正確な意味は伝わってきません。
- ② 字義通りの解釈も重要です。字義通りの解釈とは、文脈に沿ってそれぞれのことばを当時一般的に通用していた意味で、そのまま受け取るということです。また、著者が比喩的表現を採用しているなら、その部分は比喩として解釈しますが、本来比喩的言葉でないものまで象徴的、比喩的に解釈し、結果的に著者の意図とは異なった結論を導き出すようなことはしません。

3. 巻物の傍らに立つライオン

これは、ユダの獅子、つまりイエス・キリストを指します。イエス・キリストというお方をどのように見るかは、キリスト教信仰の土台です。間違ったキリストを信じて、救いに至る信仰とはなりません。

- ① キリストについての理解のかなめは、「イエス・キリストは、完全に人であり、完全に神である」ということです。
- ② イエスは他の人間と同じように女から誕生し、生き、苦しみ、死にました。この点では、完全に人です。
- ③ 同時に、イエスは他の人間とは異なっていました。そのことは、次の4点を見れば明らかです。
 - イエスは、永遠の昔から存在していました。
 - その生涯において一度も罪を犯しませんでした。
 - その死は人類の罪を贖うものでした。

- 復活と昇天によって、神の子であることが証明されました。
- ④ 聖書が教える福音の三要素とは、以下のものです。①キリストは私たちの罪のために十字架上で死なれた。②死んで、墓に葬られた。③三日目によみがえられた。人は、これを受け入れ、イエス・キリストをそのようなお方と信じて救われます。これ以外に、救いの道はありません。

4. 巻物の傍らに立つライオン

再度、ライオンです。ヘブル語では、「アリエル（神の獅子）」とも呼ばれます。

- ① 20年間セミナー講師としてお招きしてきたフルクテンバウム博士は、米国テキサス州に本部を置くアリエル・ミニストリーズの代表です。
- ② 聖書フォーラム運動を指導している中川健一牧師とその福音宣教団体ハーベストタイム・ミニストリーズは、アリエル・ミニストリーズと協力関係にあります。フルクテンバウム博士は、私たちのメンター（指導者、助言者）であり、私たちは博士から、ヘブル的視点で聖書を読む方法を学んできました。
- ③ ハーベストタイム・ミニストリーズの活動が祝されてきた理由のひとつは、ユダヤ人を祝福し、ユダヤ人伝道を支援してきたことであると中川牧師は確信しておられます。

■聖書フォーラム運動の基本理念

1. 共生のためのABC

- (1) 目的 (AIM) 人の功績や栄誉のためではありません。神をほめたたえます
 - 神の栄光
- (2) 土台 (BASIS) 同じ聖書理解を共有します
 - ヘブル的視点による聖書解釈
 - ディスペンセーションナリズムによる聖書解釈
 - 聖書的イスラエル理解
- (3) 理念 (CONCEPT) 各フォーラムは自立し、かつ連携します
 - 自給伝道・家の教会・ネットワーク

2. 自立への道—教会の病理現象 (FATIM) からの脱却

- (1) 形式主義 (FORMALISM) から自由 (FREEDOM) へ
 - キリストにある自由・愛を働かせるための自由
- (2) 権威主義 (AUTHORITARIANISM) から自治 (AUTONOMY) へ
 - 自給伝道・自主運営
- (3) 伝統主義 (TRADITIONALISM) から変革 (TRANSFORMATION) へ
 - ヘブル的聖書解釈・神の国の視点
- (4) 内向き志向 (INWARD-LOOKING) から外向き志向 (OUTWARD-LOOKING) へ
 - キリスト教信仰を世界観・歴史観としてとらえる

(5) 会員志向 (MEMBERSHIP-ORIENTED) から流動志向 (MIGRATION-ORIENTED) へ

- 歴史の流れと社会の現状を読む
- 自らの動機の再確認

■具体的な質問

1. 聖書フォーラムは、教会ですか？

- (1) 聖書フォーラムは、教会です。
- (2) 聖書で言う教会には、普遍的教会 (単数) と地域教会 (複数) とがあります。
- (3) 普遍的教会とは、使徒 2 章の教会誕生以来、すべての真の信者が属する「目に見えない、ひとつの教会」です。そのかしらは、主イエス・キリストです。教会はキリストのからだ、私たちはそのからだを構成する器官のひとつひとつです。
- (4) 地域教会とは、「目に見える地上の教会 (複数)」です。建物でもなければ、教団組織でもありません。その地域で、共に集まり、共に励まし合い、共に学ぶ信者たちの集まりです。
- (5) 使徒の働き時代では、教会というと「家の教会」です。信者の自宅に集まっていました。ただし、家庭集会=家の教会ではありません。教会になるためには、長老の資格があると認められて按手礼を受けた信者 (男性) が 2 名以上リーダーとして任命される必要がありました。複数指導が聖書の原則です。
- (6) 女性は、長老にはなりません、執事として、奉仕する立場が与えられます。
- (7) 長老と執事は、聖書フォーラム委員会において認証され、按手礼を受けて、その奉仕にあたります。自分勝手にその職名を自称することはできません。
- (8) 長老 1 名以上とサブリーダー 2 名以上、計 3 名以上が、「サーバント・リーダー (会衆を支配するのではなく、仕えるリーダー)」として立つ集会在、聖書フォーラムとなり、聖餐式と洗礼式を行うことができます。
- (9) 洗礼式については、聖書フォーラムの夏季キャンプが毎年 7 月下旬に静岡県御殿場にて開催され、そのプログラムの中にも準備されています。キャンプに参加して、全国の仲間が立ち会う中での洗礼式をお受けになることをお勧めします。
- (10) 門司港の集会在、まだ単独では長老を立てられませんので、熊本聖書フォーラムの外部集会在として位置づけられます。このような外部集会在は、福岡市でも開催しております。

2. 献金はどうするのですか？

- (1) モーセの律法に収穫物の十分の一を神殿に捧げるという規定がありますが、モーセの律法自体がイスラエル民族にのみ適用されるものです。まして主イエス・キリストが律法の要求を完全に成就して、モーセの律法を終了させましたので、十分の一規定は、全く私たちには適用されません。
- (2) 新約時代の献金は、「各自が心に決めたとおりに、喜んで捧げる」ことと、「匿名」であること、この二つの原則が大切です。
- (3) 門司港の集会在では、集会室の賃料や水道光熱費などを賄う必要があります。集会在

の献金によって、必要額が満たされるようにお祈りください。

- (4) 熊本や福岡の集会では、そのような賃料や水道光熱費はかからないので、集会としては、これまで献金箱を置きませんでした。今後、門司港集会を少しでもサポートできるよう、そのための献金を呼びかけて、献金箱を置くことにします。
3. 葬儀や結婚式はできますか？
- (1) 聖書フォーラムの長老は、一般的な呼び方をすると「牧師」にあたります。葬儀や結婚式の司式を執り行うことができます。
- (2) 葬儀や結婚式については、前もって式場の手配や費用の見積もりなどを準備検討しておくといでしょう。
- (3) 墓地は、ハーベストタイム・ミニストリーズが富士山ろくと大阪の2か所に共同墓地を運営しております。海上散骨にも対応しております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

■神の国の福音

1. 紀元26年、先駆者ヨハネの宣教「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」(マタイ3:2~3)
2. それから約半年後、イエスの宣教「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」(マタイ4:17、マルコ1:15)、神の国の福音(ルカ4:43)
3. 神の国=神のみこころが地上において行われる国、平和と正義の国。聖書は、神の国に関する神のご計画がどのようなものか、歴史の中でそれがどのように啓示され、進展していくかを教える書物です。
4. 紀元前1406年、モーセによる預言「あなたの神、主に立ち返り・・・」(申30:2)
申命記30:1~14
 - (1) 1~4節 イスラエル民族の離散と帰還の預言
 - (2) 5~6節 土地の約束・子孫の約束・祝福の約束が成就する
 - あなたの神、主は、・・・あなたが生きるようにされる。
 - (3) 14節 まことに、みことばは、あなたの心にあって、これを行うことができる
5. イスラエルの民が、民族的に悔い改めて主に立ち返ることが、神の国の到来の条件
6. どうやって、「みことばは、あなたの心にあって、これを行うことができる」ようになるのでしょうか？ 神がこれをされるといのは、何のことでしょうか？(エレミヤ33:33、エゼキエル11:19) 神の霊を心の中に受けることです。
7. どうやって、神の霊を受取るのでしょうか。(ヨハネ7:38~39) イエスを信じることです。
8. イエスの何を信じるのでしょうか。(ローマ10:8~13) イエスは主であると告白し、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じる
 - ① イエスは、ご自身の血をもって私を買って取ってくださった主人です。私は罪の奴隷でしたが、今はイエスに買い取られてイエスの奴隷となりました。
 - ② イエスは、聖書の神ヤハウエ(主)が人となられたお方です